

モラルの大切さ知る NPO法人 北海道海浜美化を進める会

海浜を清掃、自然も体験-エコツーリズムin羽幌

札幌から北にバスで4時間程走ると羽幌という町がある。西に天売島、焼尻島という2つの秘島を抱えるなど自然に恵まれた所。ちなみに、天売島には貴重な海鳥が棲息する。絶滅危惧種のオロン鳥(ウミガラス)、ウミネコやウミウ、オオセグロカモメなど8種類の海鳥が飛来する。中でもウミスズメ科のウミウは30万つがい繁殖、3月から8月にかけての繁殖期には100万羽の海鳥が飛び交い島は文字通り「海鳥の楽園」に変身するという。

そうした楽園を彼方に見ることのできる羽幌の海辺はさぞかし綺麗なのだろうと思いきや、その期待は見事に裏切られてしまう。

NPO法人北海道海浜美化を進める会(水崎呈会長)では、「エコツーリズムin羽幌2008」(9月27日、28日)を実施した。単に海浜美化活動を行うだけでなく、羽幌町周辺の森や川と触れ合うことで自然の素晴らしさや自然の恩恵を知ろうというのが狙いだ。

このツアーに札幌から小学生から中高大学生、70代後半のお年寄りまで約40人が世代を超えて参加した。

1日目は、羽幌町から南に40*ほどの所にある小平町で海浜清掃を実施。

2日目は午前中に羽幌町の北海道海鳥センターを訪れ、海鳥を取り巻く環境についてのセミナーに参加。午後は鮭の遡上を見た後、海岸に繰り出しゴミ拾いを実施。地元の海鳥ジュニアレンジャーのメンバー20人、そして名寄市のボランティア団体ゴミプロジェクトのメンバーが参加し、羽幌サンセットビーチで美化活動を展開した。今回は参加してもらったメンバーにボランティアに対する標語を募集したところ、「ゴミ拾い 沢山拾って (袋が)重くなる」(小4女の子)、「循環す 綺麗な海が 人となる」(大2・女の子)などモラルの大切さやゴミ拾いへの思いが伝わってくる作品がたくさん集まった。

